

KIES

Kimitsu International Exchange Society

君津市国際交流協会 会報

NO.13

(発行・編集)
君津市国際交流協会 (KIES)
広報委員会

〒299-1152 君津市久保2-11-21
TEL (54)9877

ホームページ
<http://www.tokyo-bay.ne.jp/~kies/>
メール
kies@tokyo-bay.ne.jp

新会長に 鎌田和子さん



本協会も発足以来、熱心な会員皆様のお骨折りによりまして、事務局を中心に各委員会とも、それぞれの分野におきまして活発な活動を続けて今日に至りましたことは真に御同慶にたえません。今後更に各委員会の連携を密にされ、活動を強化して各国の方々との相互の理解促進を深めるように努力してまいりたいと存じます。昨年は韓国の儀旺市の訪問を行いました。この秋には、その御返礼として御来訪が予定されておりますので充分な御接待を申し上げたいと存じます。最後に重ねて会員皆様の御支援御協力をお願い申し上げます。

この度本会創設以来、多大のお骨折りを頂きました前田会長の御引退により、私が会長をお引き受け致すことになりました。もとより浅学非才の身に到底その任ではございませうが、御丁寧な御推挙を頂きましたので暫くの間、会長の職を汚させていただきますと存じます。また、前、前田会長にはこれからも顧問として御指導を頂きたいと存じます。



夏の恒例行事
野外パーティーで
楽しい交流



7月20日(海の日)、今年で5回目を迎えた野外パーティーが、小糸観音堂で行われました。外国人約30人を含む参加者約100人が国際色豊かに交流を深めながら、夏の一日を楽しく過ごしました。ソーメン流しを初めて体験した外国人からは、「おいしい、楽しい」といった声も多く聞かれました。また、木更津市在住の外園一二三さんの実演によるすっかり古典芸能となったバナナのたたき売りや、バーベキュー、野菜の直売、カルタ取りなど盛りたくさんの内容で、そのひとつひとつで会話が弾みました。



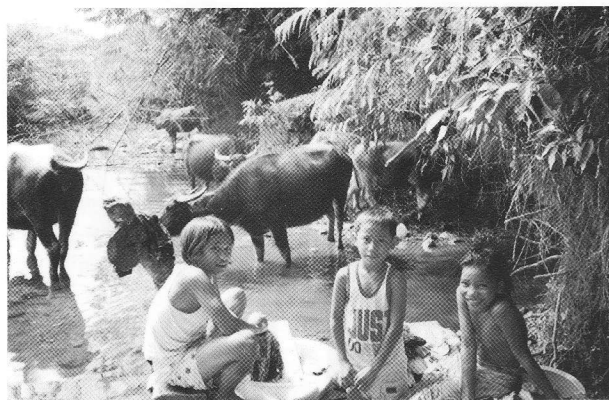
海外で活躍する君津人

複雑で不安な社会と明るく陽気な人々の国フィリピン

カトリック守護の天使の姉妹修道会 修練者 溝口 由美子 (医師)

君津のみなさん、こんにちは。私は1999年5月から2年間程フィリピンに滞在し、カトリックの修道女 (シスター) になるための勉強をしています。主にマニラで生活していましたが、この間私が見て感じたことをここに書くことで、日本で生活する多くのフィリピン人達の姿の一部を、皆さんが理解する手助けになれば幸いです。

フィリピンは日本と同じアジアに属し、距離的にも近い国なのですが、歴史・文化・風俗・習慣などは全く異なっています。7100余りの島々から成り、ルソン、ビサイヤ、ミンダナオの3つの区域に大別され、使われている言語は100以上と言われています。公用語はタガログ語と英語ですが、会話では両者を混合したいわゆるタグリッシュ (タガログ+イングリッシュ) を用いることが多いようです。300年間スペインの支配下にあったため、スペイン語の単語がいまだに残っており、言語によっては7,8割がスペイン語の単語という言語もあります。ミンダナオ島では英語よりもスペイン語の方が通じるようです。日常生活では各地域 (各部族) の言語



湖で洗濯する子供達

を用いるため、生まれながらに自分の地域言語に加えて、隣接地域の言語にも接するため、たいていの人が複数の言語を話します。他の言語の習得は、日本人ほど苦にはならないようです。宗教的には国民の約8割がキリスト教カトリックに属します。イスラム教は約4%ですが、南方のミンダナオ島ではイスラム教徒達を多く目にします。

また、国民の7割が貧困層に属し (このうち約30%の人達は1日3度の食事が摂れません)、中流層2割、上流層1割という社会構造で、失業率20%以上と言われています。海外労働者の多くは貧困層に属していて、その収入に家族全員の生活がかかっていることも少なくないのです。スラム街では (家を持っている人達は、ですが) 1つの家に2世帯、3世帯が共に住んでいます。空港でたくさんのお土産を持ったフィリピン人を見かけますが、家族・親族間の結び付きはとても強いのです。家族の中では、長女が両親や家族の面倒をみる重い責任を担っています。女性達の生活力は逞しく働き者が多いのですが、男性達はだいぶ甘やかされているように私は思います。仕事が無く、やる気も起きないのでしょうか、アルコールに浸り、麻薬に手を出し、ギャンブルや闘鶏に夢中になっている男性達を都会で多く目にします。一方、田舎では男性も女性も一生懸命働いていますが、土地は少数の地主によって所有されています。

家族の人数が多く (子供の死亡率は高く、4人子供が欲しければ8人産め、と言います。狭い場所に多人数で生活するため、結核の家族内感染も大きな問題です。毎年、肺結核で死亡する人は2万人とも4万人とも言われます)、収入源も限られており、家族の者が病気をやがをした場合、十分な医療サービスを受けることは、地方ではまず困難です。薬や検査に頼る西洋医学はとてもお金がかかるので、東洋医学の知識と技術を使って治療を行うことが多いようです。

日本には多くのフィリピン女性達がダンサーとしてやってきています。彼女たちにとってダンサーとは芸術家という響きを持っており、彼女達は大きな夢と希望ととてつもない家族の期待を背負って日本に来ます。南国育ちの人達の気質は一般的に明るく陽気で、祭り好きで、皆と集まって楽しむ事が大好きです。他人に涙を見せず、泣きたいときには明るく笑ってみせます。しんどくてグチを言いたい時には、ジョークを言って笑って済ませます。社会情勢が不安定で、明日の保証が無く、未来の計画を立てる事が困難な生活の中で、これは生きていくための一つの知恵とも言えます。日本人は静寂を好む傾向がありますが、フィリピン人達は賑やかさを好みます。日本人にとっての雑音が、彼等・彼女等にとってはむしろ生きていくための活力源になっているのではないかと時に思うほどです。寒い冬は無いので、物を貯える習慣はあまり無いようです。食物や



植林をしている溝口さん (左)

物は、ある時には存分に食べたり使ったりしますが、無くなったら無くなったであまり気にならないようです。最初の頃私には、この感覚がなかなか理解できませんでしたが、暑い国では食物が保存ができなかったための生き方なのだろうと、今は考えています。

皆さんの近くにフィリピンからの海外労働者や留学生はいませんか? もし、いましたら是非、自宅に招いて食事を共にしてあげてください。特別なご馳走はいりません。家族と共に皆で一つの食事を囲む食事こそ、フィリピンの人達にとって最高のおもてなしになると思います。時に神経質すぎる日本人と、繊細かつ誠実で、計画に沿って着実に努力し、明るく創造力豊かで臨機応変、小さな事にこだわらず人生をたくましく楽しく生きるフィリピン人はお互いを必要としていると思います。同じアジアに属する国として、日本とフィリピンが互いのことを知る努力をこれからも続けていけるよう願っています。また日本で生活する外国人の方々が、一人でも多くの日本人の心の友人を持つ事ができるよう、KIESのスタッフの皆さんの、ご活躍を心から祈っています。





杉田さんを囲むスタッフ
(八重原公民館にて)

雪降る日に熱いラテンの コンサート

都市交流委員会

3月31日、ギタリストのジョアン杉田さんをお迎えして、ラテン音楽を中心としたアフタヌーン・コンサートを開催しました。雪がちらつく寒い日でしたが、杉田さんの情熱あふれる演奏に心暖まるひとときとなりました。

海外旅行術教室

外国語委員会



6月25日から毎月曜日の4回にわたり、KIES事務所にて海外旅行のノウハウについての教室が開かれました。講師は海外旅行を多く経験されている会員の金子憲枝さん。生徒数は22名。海外旅行を今以上に楽しむコツや簡単な旅行会話など実践的で充実した内容で進められました。



初めての雪に感激 苗場でスキー

文化交流委員会

3月10日(土)～11日(日)、1泊2日の日程でスキーツアーが開催され、スキーや雪景色を見ることが初めての在住外国人も含め約50人が参加しました。

夜には、スキー場のお祭りがあり、タイマツの滑走や花火の見学もでき、大変楽しかったです。



ごがく 語楽パーティー開催

3月17日、君津市役所6階大会議室にて、日頃外国語や日本語を学んでいる生徒たちの成果を発表する場として、語楽(ごがく)パーティーが開催されました。

日本語委員会・外国語委員会





●日本大好き

宮崎晴美さん (中国出身)

日本に来て4年目になりました。自分の夢は、少しずつ近づいてきているような気がします。来た頃、日本語は全然話せませんでした。近所の人との挨拶や、買い物に必要な日本語は、生活の悩みと習慣に慣れないことで淋しいことがいっぱいありました。そのために、日本語教室に行きました。親切な先生方に教えていただきました。また、KIESが主催するいろいろな行事にも積極的に参加して、交流を深めることができました。とても嬉しく思っています。

今は仕事が終わってから火曜日と金曜日の夜間にKIESの中国語の講師をしています。時々クラスの人たちと一緒に食事をしたり、カラオケに行ったりと楽しい日々を過ごしています。

子ども人権教室(ふれあい教室)へ 講師派遣

8月4日(土)久留里の下町集会所において生涯学習課主催の「子どもふれあい教室」がありました。目的は「外国の方と一緒に過ごすことによって、心の広い仲間意識や温かい思いやりの心を育む」ということです。

KIESで日本語を学んでいる王綉眉さん(マレーシア)、平野スーリーさん(タイ)、中根アレンさん、岩田ドロレスさん、菊池エルマさん(フィリピン)、日本語委員会の落合正子さん、藤川智子さんが参加しました。

久留里小学校の生徒さんから「どんな食べ物が好きですか?」、「学校ではどんな勉強をしましたか?」など質問がありました。また、みんなでパーテンテールというフィリピンの遊びをしたり、スーリーさんが折り紙で「はすの花」を教えました。アジアにある違う国の挨拶や遊びを通して、生徒たちも広い世界へと目を向ける機会を得、お互いに親しくなるなど良い交流の場となりました。



KIDS英会話



作りたての英語の名刺で
名刺交換するぞ!

7月31日～8月2日の3日間、周南公民館講堂にて小学生40名を対象に英会話教室が開催されました。世界の英語圏の先生方と小学生が歌やゲームを交えて楽しく英語を学びました。

日本語委員会の研修会

日本語委員会では毎月第3土曜日に、ボランティア講師の指導力向上を図るため、研修会を開催しています。講師には、お茶の水にある日本語学校の講師をされている池永和田先生を招き、実際に即した指導をして頂いています。生徒を教えるときの良い参考となり、有意義な研修会です。

千葉国際中学・高校の留学生に日本語のボランティア



平野静子先生のお話を聞く留学生

今年も千葉国際中学・高校に短期留学生としてフランスのオンブローザ・スクールから2人の中学生がやってきました。アレクシャ・リシャルさん(14才)とロール・ファエルさん(15才)。日本語委員会では、この留学生2人に対して、6月5日～7月11日まで一日2時間の日本語の指導をしました。2人はフランスで日本語の勉強をしているため、すぐに初級の本を終わらせることができ、最後に「私の日本旅行」の作文を書いて勉強の成果としました。7月5日、お茶会に引き日本の伝統文化を紹介し、また、着物を着たり太巻き寿司を食べたりしました。

八重原小学校 音楽集會に参加

6月16日(土)八重原小学校講堂において、音楽集會がありました。テーマは「歌おう 踊ろう 世界へ飛び出そうⅡ」で、各学年が世界の歌を発表しました。その中に「タイの民族舞踊の鑑賞」があり、KIESで日本語を学んでいる平野スーリーさんと高館ミミさんが、タイの華麗な民族衣装を着て踊りを披露し、好評でした。

